

上村裁判

会社の保安サボを告発

きざしが数日前から

合志・橋口両証言 火災原因は自然発火

九・二八裁判と同じ五月二十六日福岡高裁で開廷した上村裁判で、合志・橋口両証人が重大証言を行った。

非はあくまで会社に

上村裁判公判に参加して思う

九・二八被災者 末石勝之

九・二八災害で損害賠償を訴える上村裁判公判に参加して思う。この裁判はこれによって、あつて前進した思いが強い。

九・二八被災者 末石勝之。あつて前進した思いが強い。この裁判はこれによって、あつて前進した思いが強い。

考えさせられたこと

北摂オールド交流への感想

本紙の二面記事に北摂CO守る会代表の来組、交流のことがありますが、ここにその交流に参加した三池労働組員の池畑重富さんと、CO患者家族の清水栄子さんから手記をいただきました。紹介いたします。編集部

三池指導部

池畑重富

二十八・二十九日二日間、北摂地区労災職業病対策会議で活動されている十九名の仲間と交流することが出来、多くのことを学びました。

北摂の仲間、五月七日時速二百十キロの新幹線列車に、二、三、職場から聞き取りが、私に命が奪われた災害外に、北摂から、

前的事実を三川鮎の一保安作業関係者から直接聞いたとき、八災害関係者ももちろん、原告団に明らかにした。

「その人は火災二日前の二十六日に、同箇所の目録作業に、たとき、余りの高温のためふらふら倒れそうになった、と、

宮辺・川口両家の一年

忌にお詣りして思う

CO患者家族 石原政子

炭じん曝露から十四年になり、CO患者の状況は、

「疲れたのだらう」といっておられたので、何となくお慰めした。

原告団消息

5月1日 第四十八回ミーティング。被災者協議会(原告団を含む)として、ヒラ配りやスモン病患者の事情を訴え、カンパ要請を行なう。

12日 班長会議。三井鉱山に対する遺族・CO患者の要求事項集約。二十六日の裁判の取り組みについて。

15日 三池じん肺会、十三周年記念法要集会。

22日 大分・長崎全通青年婦人部オールド、熊本大学付属病院のCO患者見舞い。家族の会が案内者がつく。

24日 原告団編集会議。被災者協議会。

25日 原告団役員会議。大阪北摂CO守る会オールドとの交流について。裁判について。

26日 九・二八裁判、上村裁判の両公判開廷。組合側の合志・橋口両証人、上村裁判公判で三川鮎内火災が、突発的な災害でなく、会社の保安サボにより発生した事実を証言。

28日 北摂COオールド二十人來組。緑ヶ丘、原方田、万田、野添、新港三川の各地に分宿。各地域で交流。

29日 北摂COオールドと原告団役員と交流(三川公民館)。

前日からの交流の総括を行なう。午後は、同オールドと三川指導部職場新聞まつりに参加。あとオールドは離席。

なお、五月十四日故宮道孝さんの、同月二十四日故川口時雄さんの、同月二十日、木下輝雄さん(新港作業所) 荒尾市民病院入院。一日も早くの快癒を祈っております。

CO患者家族

清水栄子

五月二十八日、北摂オールド二十名が例年のように三池へ來られ、私達の地域にも三池の予定で、はいりました。主人もまたま外泊なので、いっしょに交流しました。

最初に私は、主人の印象をオールドの人に尋ねると、「普通のひと、変らな、」という返事があり、その後主人にペンを持ってもらって字や人の顔を書いてもらいました。

「三池の方々に、労働者の団結の輪をひろげるために、自分の家によそからやってくる仲間を泊める決意をした」と、と目を輝かせて、北摂の仲間言葉を忘れることはできません。

「労働者の思想は、労働者自身がつくる以外にない」との重要な指摘も受けましたが、かつて私たちの先輩も学習を重ね、資本の差別・分析支配に負けず、命と権利を守るため、五人組をつくって、は知恵を出し合、家族ぐるみで助け合ひながら、闘いを発展させてきました。今はどうでしょう。